



謹賀新年

2026年

## 真の「魅力ある港湾労働」の確立を

明けましておめでとうございませう。

2026年頭にあたり各仲間の皆様に対し、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、我々全国港湾は26春闘を取り組むにあたり次の基本的な構えと考え方について臨むこととしています。

第一の柱は、大幅賃上げ・労働時間短縮で魅力ある港湾労働の確立、人員不足を解決していく。第二の柱は、適正料金の確保と港湾労働者保障基金制度の拡充を労働環境整備の必須条件と位置づけ、そのために港湾ユーザーの巨額な利益還元を「社会的責任」として追及する。第三の柱は、政府の政策、「体制的合理化」による負の影響を除去し、産別「政策課題」の解決・前進へ、労使共同の取り組みを進める。第四の柱は、港湾労働者の命の問題として「港湾を兵站基地にさせない」取り組みを軸に、憲法改悪反対、辺野古新基地建設反対、大軍拡・増税反対、社会保障削減反対などの国民的諸課題の取り組み強化。第五の柱は、国際連帯・国民的共同行動の高揚に合流し、取り組みの「可

視化」を通じて職場・地域の仲間の結集による「産別運動」の総力を発揮して闘う。この五つの柱を軸に26春闘に臨むわけでありすが、どれをとりましても我々港湾労働者の基本的理念である「魅力ある港湾労働」を確立するうえでの各論といえます。

そして、この考え方は、我々港湾労働者のみならず我々の使用者である日港協にとりましても、港湾産業基盤強化を実現していくうえで労使共通の課題であると確信するわけであります。

つまり、今、一連の最賃問題におきまして中央港湾団交をとおし、争議行動辞さずといった緊迫した事態を招くのではなく、少なくとも我々の最賃要求に対して日港協は「満額回答」で以て応えることで良好な労使関係の再構築に向けた26春闘交渉（中央港湾団交）を取り組んでいくべきであ



どうか、全国の仲間の皆様におかれましては、「団結」の力を引き続き賜りたすべきだ。もう一つは、解雇の金銭解決制度。厚生労働省が昨年の11月18日に解

年頭挨拶

中央執行委員長

竹内 一

シャモ樽

近年、使用者寄りの労働政策が相次いでいるが、その中でとりわけ筋の悪い二つの見直し

労働政策審議会が議題に上がっている▼そのうちの一つが副業・兼業の労働時間通算の撤廃である▼現行法では、本業と副業・兼業先との労働時間の合計が1日8時間を超えると、時間外労働手当が必要となる。だが、実際には形骸化している規制ではあるが、使用者側はおそらく潜在的な負担増を懸念しているか、この規制があると「副業の機会が増えず、労働者のためにならない」などと主張している▼「お疲れ様でした」と退勤した後、疲れた心身を奮い立たせ、次の職場に『おはようございます』と入るつらさを考えると一つの職場でまともに暮らせる賃金こそ労働行政は追求すべきだ▼もう一つは、解雇の金銭解決制度。厚生労働省が昨年の11月18日に解